

## 平成19年度 徳島県田園環境検討委員会（第2回）会議録

日 時：平成20年3月27日（木）13時00分から16時10分

場 所：阿波市市場町  
徳島県庁10階特別中会議室

出席者：【委員】角野康郎委員長、茨木靖、桑田トシエ、田村典子  
伊沢幸雄、植田美恵子、吉村昇（敬称略、10名中7名出席）  
【 県 】農山村整備課長、農地整備課長ほか

- 委員会次第：1 開 会  
2 開会のあいさつ  
3 議事（1）現地視察：ため池等整備事業池谷池地区  
（2）平成20年度農業農村整備事業新規予定地区の  
「環境との調和への配慮」について  
（3）農業農村整備事業「環境との調和への配慮」  
の実績について  
4 閉会のあいさつ  
5 閉 会

### 《配付資料》

- 資料1 会議次第  
資料2 配席図  
資料3 議事資料（1）（2）（3）

- 会議録：1 開 会  
2 開会のあいさつ：農山村整備課長からあいさつ  
3 議事（1）現地視察：ため池等整備事業 池谷池地区  
（2）平成20年度農業農村整備事業新規予定地区の  
「環境との調和への配慮」について

### 主な質疑・意見等概要（個別地区）

- 1．国営附帯県営農地防災事業 唐園地区
- 2．農免農道事業 池田地区

【委員】 唐園はパイプライン化しても既存の開水路は現状のまま残すとのことであるが、農業用水路としては不要になると思う。何か理由があるのか。

【 県 】 既存の開水路は用排兼用水路であり、用水はパイプライン化するが、排水路としての機能は必要であるので残す必要がある。

【委員】 水路に流す水は、ポンプアップして流すのか？

【 県 】 水は、ポンプアップして水路に放水し、水路に流す。

【委員】 維持管理費（電気代等）がかかるので、できるだけ自然で流すなどして、農家負担を少なくしていただきたい。

【委員】 農免道路で、現地種子を使うとの事だが、具体的な対策は？

【 県 】 現地に生えている植物から種を採るのでは無く、現地にあるのと同じ種類の植物の種子を配合し緑化に使っている。

### ( 3 ) 農業農村整備事業「環境との調和への配慮」 の実績について

主な質疑・意見等概要（環境との調和への配慮について）

【委員】 環境に配慮した資料を残していけば貴重な財産となると思う。  
工夫した工法、対策方法を誰が見ても使えるような形でまとめてはどうか。

【 県 】 まだ工事が始まっていない地区が多い。  
実績はだんだんと増えていくので、進捗状況を見てとりまとめを行いたい。

【委員】 環境に配慮した対策を行っていることを、もっと多くの方に知ってもらいたい。  
今日の現地視察で、ため池をみたが、周辺にゴミが大量にあった。  
このような現状を地域の方に知ってもらい、地域ぐるみで環境の事について取り組んでいただきたい。

【委員】 ため池の護岸に使っている自然石と偽石ブロックとの違いは何か。

【 県 】 自然石を使えばよいのだが、コストの面から難しいため、偽石ブロックを使用している地区がある。

委員会全般についての意見

【委員】 平成15年から環境に配慮した工事を進めているが、これは事業全体からみてもどの程度の割合で行われているのか。

【 県 】 平成19年度は100地区程度事業を実施しているので、4割弱で配慮工事を行っている。

【委員】 土地改良法が改められてから短く、まだ試行錯誤の段階であり、成果が出ている地区もあればあまり出ていない地区もある。  
改善する方法で進めていけばよいと思う。

【委員】 地域住民に環境配慮を行っていることをPRしてはどうか。  
知らせていないと、ゴミが増えたり、除草剤をまかれたりするかもしれない。

【 県 】 土地改良区と共にPRに取り組んでいる。  
農家だけでなく非農家の理解も必要だと考えている。

4 閉会のあいさつ：農地整備課長からあいさつ

5 閉会